

区分・種別	史跡		
名 称	のしまじょうあと 能島城跡		
所 在 地	今治市宮窪町宮窪		
所 有 者	今治市ほか	管 理 団 体	今治市
指定年月日	昭和28年3月31日		
解 説	能島城跡は、能島（野島ともいい、標高25m、面積約1.5ha）と属島の鯛崎島（標高22m、面積約0.3ha）にまたがり、南北朝時代から戦国時代にかけて能島村上氏（野島氏）が居城とした典型的な海城の遺跡である。 両島は、大島と伯方島との海峡（宮窪瀬戸及び荒神瀬戸）にあって鵜島に隣接し、内海横断の重要水路に位置する要衝であった。 能島は江戸時代以降無人島であったため、遺構がよく残っている。島全体を3段に削って、本丸・二の丸・三の丸と階段状に郭を設け、さらに東隅と南隅に出丸が配置されている（東隅の出丸は、矢櫃といわれる）。鯛崎島の頂上も削られて出丸が築かれていた。両島の周囲の要所には岩礁のうえに380個に及ぶ柱穴が整然と残っていて、この海城の規模や構造をうかがわせる。 室町時代に村上水軍の根拠地となり、以後特異な城郭としてその威を誇ってきたが、豊臣秀吉の四国統一の後に廃城となったと考えられる。中世の内海をめぐる歴史や城郭研究の上で貴重な史跡である。		

